



▲クリンクルセンター

## ② バランスシートの右側は貸方

貸方は、借方に計上されている資産のうち、将来にわたって返済すべき借金などの債務である『負債』と、市税などの一般財源などや国・道からの支出金などを財源とする『正味財産』を表します。

## ③ 借方と貸方は、同額

資産は、負債と正味財産の合計（資産＝負債＋正味財産）で、借方と貸方のバランスがとれているため、『バランスシート』と呼ばれています。

## 登別市の 資産と負債

表1（3ページ）のバランスシートをみると、登別市の資産は、現金や公共資産などを合わせて約260億円。その

うち、道路や学校などの公共資産が約9割を占めています。

一方、負債は約319億円で、そのうち市の借金である市債は約268億円。

資産と負債の差額である正味財産は約301億円となっています。

## ■ 資産の部

公共資産は、将来にわたって行政サービスを提供していく上で、その根幹をなしていくものです。しかし、公共施設は年月とともにその価値が下がっていくものがあるため、公共施設を資産として計上する際、減価償却の手法で計算します。

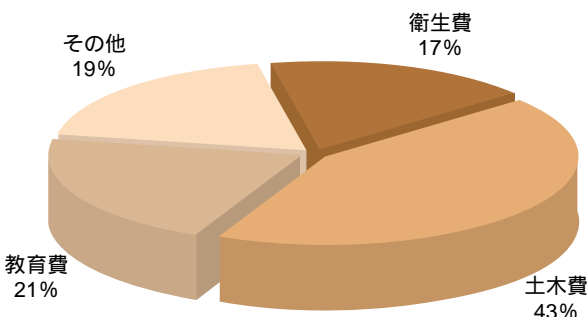
減価償却とは、使用や時の経過などに伴って生じる経済価値の減少分を見積り、資産としての価値を減額する手続きで、このバランスシートでは、その累計額を『減価償却累計』として評価しています。

ただし、土地などの損耗しない財産は、減価償却を行っておらず、また、減価償却を行っている公共資産については、国が示した耐用年数をもとに機械的に減価償却した後の額で表示されていますが、それぞれの資産の老朽化が著しくその価値が表示額より大幅に減少している場合は含み損になります。正味財産も、実際には、その分少なくなるようになります。当市の建物などは、その傾向が少なくないため、今後、個々に調査をしなければなりません。

## ① 公共資産の割合

総務費や民生費などの行政目的別で

グラフ1 公共資産の割合



は、道路・河川・公園・公営住宅などの土木費の割合が最も大きく、43%となっています。

また、クリンクルセンターや最終処分場が含まれている衛生費は、17%となっています（グラフ1）。

## ② 公共資産の耐用年数

公共資産の耐用年数は、施設の種類によって異なります。

耐用年数は総務省から示された耐用年数表を利用し、道路は15年、公営住宅は40年、校舎は50年を目安としています。この耐用年数を基礎にして、減価償却を行っています。

## ③ 投資等

『投資等』とは、市が保有する有価証券や出資の額、市が行っている貸付金の残高、特定の目的のために積立



▲10月22日に工事が完了した登別富浦路線『登別橋歩道橋』。

ているお金で、約31億円です。

## ④ 流動資産

流動資産として計上されている『現金・預金』は、債務返済に対応するための用意があることを示しています。

『未収金』は、平成12年度の市税や使用料などのうち、まだ収入されていない額を示しています。総務省の基準では、その全額を資産に計上することとしていますが、この中には支払いが遅れ、不良債権となると思われるものも含まれているため、市では、過去5年間の状況を踏まえて、9割程度を減額して計上しています。

## ■ 負債の部

負債の中で、84%を『市債』が占めています。